

若年者ものづくり競技大会(電工職種)への挑戦

佐賀県立佐賀工業高等学校 実習助手 嬉野 彰宏

1 はじめに

本校は電気工事職種において第14回と第16回に金賞(2連覇)を獲得することができた。(第15回は新型コロナウイルス感染症の為に中止)このことについて生徒の取り組みを中心に紹介する。

2 学校紹介

本校は今年度124周年を迎える県内で最も歴史と伝統ある工業高校である。昭和23年(1948)に「佐賀県立佐賀工業高等学校」と改称し、現在は全日制課程に機械科、機械システム科、電気科、電子科、情報システム科、建築科の6学科6クラス、定時制課程に機械科、電気科が設置されている。

3 若年者ものづくり競技大会とは

厚生労働省と中央職業能力開発協会の主催で、技能を習得中の若年者を対象に、競技を通じて技能の向上を目的として実施されている。

本競技会では15職種の競技が行われており、第16回大会は443名の選手が出場した。

4 電気工事職種の課題について

第二種電気工事士の技能試験を参考に、「金属管工事」「PF管工事」「ケーブル工事」を実際の屋内配線工事に見立てた競技課題となっている。また競技当日に公表課題から20%程度変更される。



図1 競技中の様子

5 選手選抜について

本校は選手1名を基本として選抜している。工業技術基礎の授業や電気工事士等の資格取得補習の際、工具の扱いが優れていることや、学校生活で主体性

を持って行動できる生徒に声をかけている。令和3年度に出場した生徒は2年生でバドミントン部に所属しており、兼部する形で今大会に出場した。

6 活動・選手について

活動は放課後や休日に選手に主体性を持たせて選手自身で練習内容を決め活動している。

本選手は負けず嫌いで信念を持って取り組むことができる生徒である。課題に取り組む中で、自分なりに工夫して作業時間内に終了できるように努力していたが、なかなかうまくいかず悩んでいた。そのため、指導教員の助言や自身の作業を撮影して先輩方の作業動画と比較したり、また卒業生からアドバイスをいただいたりしながら、作業時間の短縮をすることができた。

7 生徒の感想

初めての全国大会だったので、今まで以上にプレッシャーを感じ、高校生ものづくりコンテスト県大会でしたミスをしないよう頑張りました。県大会とは雰囲気が違って、最初は手が震えたりしましたが、作業を進めるうちに自然と落ち着き、自分のできることを精一杯することができました。結果は優勝することができましたが自分の中で納得する形で終わらなかったのが残念でした。今回の大会に出場するにあたって材料の準備や片付け、工具の製作などを手伝ってくれたクラスメイトや多くの先生方に感謝しています。この経験を活かし今後の学校生活や進路選択について考えていきたいと思います。

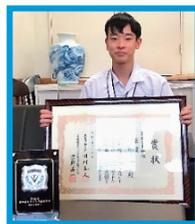


図2 喜びの様子